【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第２区分
【発行日】令和6年3月14日(2024.3.14)

【国際公開番号】WO2022/260134
【出願番号】特願2023-527923(P2023-527923)
【国際特許分類】
Ｇ０２Ｂ　5/30(2006.01)
Ｇ０２Ｂ　1/118(2015.01)
Ｇ０２Ｂ 27/02(2006.01)
Ｂ３２Ｂ　7/023(2019.01)
Ｂ３２Ｂ　7/027(2019.01)
Ｇ０２Ｆ　1/1335(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０２Ｂ　5/30
Ｇ０２Ｂ　1/118
Ｇ０２Ｂ 27/02　　Ｚ
Ｂ３２Ｂ　7/023
Ｂ３２Ｂ　7/027
Ｇ０２Ｆ　1/13355１０

【手続補正書】
【提出日】令和5年11月16日(2023.11.16)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
積層反射層を２層以上有する、光学用積層体であって、
前記積層反射層は、実質的に棒状液晶化合物からなる第１液晶化合物を用いて形成されたコレステリック液晶層を少なくとも１層以上含み、実質的に円盤状液晶化合物からなる第２液晶化合物を用いて形成されたコレステリック液晶層を含まない反射層Ａと、
実質的に円盤状液晶化合物からなる前記第２液晶化合物を用いて形成されたコレステリック液晶層を少なくとも１層以上含み、実質的に棒状液晶化合物からなる前記第１液晶化合物を用いて形成されたコレステリック液晶層を含まない反射層Ｂとを、１つずつ含み、
前記２層以上の積層反射層のうち、積層方向に隣り合う２つの前記積層反射層において、前記反射層Ａ同士が対向している場合には、隣り合う２つの前記積層反射層に含まれる前記反射層Ａ同士の反射光の中心波長が異なり、
前記２層以上の積層反射層のうち、積層方向に隣り合う２つの前記積層反射層において、前記反射層Ｂ同士が対向している場合には、隣り合う２つの前記積層反射層に含まれる前記反射層Ｂ同士の反射光の中心波長が異なる、光学用積層体。
【請求項２】
前記反射層Ａと、前記反射層Ｂとが前記光学用積層体の積層方向において交互に配置される、請求項１に記載の光学用積層体。
【請求項３】
前記積層反射層の合計層数が２０以下である、請求項１に記載の光学用積層体。
【請求項４】
波長４００～７００ｎｍの光の反射率が４０％以上５０％未満である、請求項１に記載

の光学用積層体。
【請求項５】
前記積層反射層が、１つの前記反射層Ａと１つの前記反射層Ｂとが直接接して構成されるか、または、１つの前記反射層Ａと、１つの前記反射層Ｂと、前記反射層Ａと前記反射層Ｂとの間に配置される密着層とから構成される、請求項１に記載の光学用積層体。
【請求項６】
少なくとも反射円偏光子と、円偏光を直線偏光に変換する位相差層と、直線偏光子とをこの順で有する積層光学フィルムであって、
前記反射円偏光子が請求項１～５のいずれか１項に記載の光学用積層体である、積層光学フィルム。
【請求項７】
前記直線偏光子が、少なくとも液晶化合物と二色性物質とを含む光吸収異方性層を含む、請求項６に記載の積層光学フィルム。
【請求項８】
ポジティブＣプレートをさらに含む、請求項６に記載の積層光学フィルム。
【請求項９】
表面に反射防止層をさらに含む、請求項６に記載の積層光学フィルム。
【請求項１０】
前記反射防止層が、モスアイフィルムまたはＡＲフィルムである、請求項９に記載の積層光学フィルム。
【請求項１１】
ｔａｎδのピーク温度が１７０℃以下である樹脂基材を含む、請求項６に記載の積層光学フィルム。
【請求項１２】
請求項１～５のいずれか１項に記載の光学用積層体を含む、光学物品。
【請求項１３】
請求項１２に記載の光学物品を含む、仮想現実表示装置。